



2007年の年頭にあって

新年あけましておめでとうございます。

皆様には、ますますご健勝にて新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

日頃より、福井県水産試験場の業務に対し格別のご理解とご支援をいただき誠にありがとうございます。特に大型クラゲや越前うに対策の事業では漁業者の皆様方の多大なるご協力をいただき、心から厚くお礼申し上げます。

福井の水産業をみますと、依然として低迷状況から脱したとはいえ、昨年も大型クラゲが当初の予想に反して大量に押し寄せ、定置網や刺網の操業に影響を及ぼしましたし、年末には若狭がきが不漁との話も飛び込んできました。一方で、定置網などの漁獲が好調であったことや、近年不漁であった越前うにがやや回復をみせたことなどうれしい話題もありました。これらの好事が、昨年一年のことに留まることのないよう、水試職員一同精一杯努力する所存です。

昨年の水産界における世界レベルでのキーワードは、「世界の魚食化」にあったように思われます。日本人だけが自由においしい魚を口にするといい時代ではなくなってきたようです。ここにも世界規模での競争が起きており、水産物の需要構造が世界的に変化してきているといえます。しかし、そのような需要を満たすだけの資源が世界の海にあるのかは疑問です。マグロ問題に象徴されるように、今後世界的にさらに乱獲が進むようなことがあれば、水産業は本当に衰退の一途を辿らざるを得ないでしょう。

福井県においても目前に迫った問題が多々あり、私たちはその解決のために全力を尽くすことはいまでもありません。しかし、それにも増して「長期的視野から産業の発展を考える義務」があると信じています。そこに水産試験場の存在意義があるのではないのでしょうか。1月3日の朝日新聞社説には「長期と短期の視点が求められる」とありました。水産業の基礎が水産資源であることは言をまたないでしょうし、最近の水産業衰退の本質は周りの海に魚がいないことにあるといっても過言ではないでしょう。資源なくして水産業は成り立ちません。海からの幸を私たちの代で取り尽くすのではなく、子孫の代まで利用できるようにすること、資源管理と海の生産性(環境)を守ること、そのための技術開発に貢献することが私たちの義務であると考えています。福井県は、美味しい食べ物が多岐にわたる県で日本一だとか。美味しい食べ物の代表は「越前がに」であり「若狭ふぐ」でありまた「若狭ぐじ」など水産物でしょう。年末年始のグルメ番組や旅番組で何度も見て、内心福井県を誇らしく思いました。これらを将来にまで残していかなければなりません。私事ですが、今年の元日は長野県の両親の元に「若狭ふぐ」を届け、一緒に「てっさ」「てっちり」を囲みました。水産物は本当にいいものです。

今年は亥年。猪突猛進でいいところですが、猪突猛進とは、むこう見ずに猛然と突き進むこととあります。私たちはむこう見ずではなく、冷静沈着に将来を考え、時代の変化に対応すべく知恵を絞りながら猛然と突き進みたいと思います。是非皆様のご支援をお願いいたします。

新しい年が本県水産業にとって発展と希望に満ちた明るい年でありますことを祈念し、あわせて、皆様方のご活躍と海の安全を心よりお祈りして、年頭のあいさつと致します。

(福井県水産試験場長 伊藤 文成)

〔漁の様相〕

2006年12月の県内の総水揚量は1,082tで、2005年同月を647t上回った。サバ類(2006年;10t, 2005年;0.3t、以下同じ)、カツオ類(19t, 0.3t)、ブリ類(66t, 14t)、サワラ(48t, 32t)、アカガレイ(101t, 20t)、その他カレイ(23t, 4t)、カマス(21t, 1t)、スルメイカ(314t, 83t)、ソデイカ(33t, 2t)、タコ類(19t, 7t)、ズワイガニ(49t, 17t)、セイコガニ(51t, 25t)等は上回った。

漁業種類別の状況

定置網 ……サバ類(サバ銘柄主体)、カツオ類、ブリ類(ツバス銘柄主体)、サワラ、カマス、ソデイカ等は上回り、全体で129t上回った。

底びき網 ……アカガレイ、その他カレイ、ズワイガニ、セイコガニ等は上回り、全体で189t上回った。

釣り・他 ……ケンサキイカ等は下回ったものの、ブリ類(ハマチ・ツバス銘柄主体)、マダイ、キダイ、アマダイ、ヒラメ、メバル類、スルメイカ[船凍イカ主体]、ヤリイカ、ソデイカ、タコ類等は上回り、全体で329t上回った。

〔県内主要漁業の12月の漁獲量〕

(調査対象市場：三国・越廼・敦賀・早瀬・小浜の各漁連支所、福井市・越前町・若狭高浜の各漁協)

(単位:kg)

定置網			
魚種	2006年	2005年	96-05平均
カタクチイワシ	1,018	331	15,533
アジ類	72,330	64,712	61,632
サバ類	10,349	294	1,958
マグロ類	375	44	1,494
カツオ類	19,001	231	48,150
ブリ類	39,451	9,616	101,974
ヒラマサ	12,582	4,766	9,378
シイラ	7,530	895	6,982
サワラ	46,839	31,504	30,417
サケ、マス	484	221	257
マダイ	1,265	1,919	4,681
スズキ	13,579	5,972	9,002
ヒラメ	1,686	1,210	2,725
カマス	19,459	1,024	5,568
フグ類	538	1,944	1,408
アオリイカ	14,050	5,184	8,941
ケンサキイカ	1,337	1,433	660
ヤリイカ	818	88	1,182
ソデイカ	18,128	1,078	32,466
その他	24,173	43,796	56,849
合計	304,991	176,263	401,256

底びき網のつぎ			
魚種	2006年	2005年	96-05平均
タコ類	6,776	1,573	6,588
ズワイガニ	48,956	17,039	39,095
セイコガニ	50,643	24,762	22,194
水ガニ	29,742	32,691	34,067
アカエビ	9,872	2,717	14,818
その他エビ	5,906	2,509	6,336
その他	37,055	20,072	47,356
合計	326,860	138,081	294,217

釣り、延縄、さし網、その他			
魚種	2006年	2005年	96-05平均
アジ類	157	82	244
マグロ類	2	260	301
ブリ類	26,434	4,359	10,130
サワラ	1,163	380	295
マダイ	4,901	1,432	5,205
キダイ	9,074	875	1,940
アマダイ	11,383	2,230	10,014
スズキ	778	411	687
ヒラメ	4,556	164	1,996
その他カレイ	400	54	182
アナゴ	399	151	965
メバル類	1,433	197	1,197
スルメイカ	313,812	82,674	164,820
アオリイカ	1,673	1,017	1,605
ケンサキイカ	317	4,970	1,698
ヤリイカ	1,555	3	683
ソデイカ	15,249	1,111	18,442
タコ類	11,952	4,909	13,329
その他	44,824	15,522	45,189
合計	450,062	120,801	278,920

底びき網			
魚種	2006年	2005年	96-05平均
マダイ	1,331	4,334	2,555
チダイ	265	3,138	1,485
キダイ	3,032	2,137	9,063
ヒラメ	1,190	553	1,798
アカガレイ	101,148	19,590	75,090
その他カレイ	22,235	3,412	17,488
カマス	1,084	390	3,900
アナゴ	4,405	1,067	7,142
ハタハタ	329	2,054	2,618
ニギス	1,056	0	1,735
ヤリイカ	1,836	44	889

総計	2006年	2005年	96-05平均
	1,081,912	435,146	974,393

〔近府県の漁模様〕

(12月下旬から1月中旬の漁獲状況……1日1隻または1統あたり。京都府の定置網漁獲量は舞鶴漁連への1日あたりの水揚量。)

石川県 …… 定置網 …… カタクチイワシ326kg、ブリ293kg、フクラギ81kg、アジ57kg
 底曳網 …… ズワイガニ67kg、ニギス52kg、コウバコ38kg、アマエビ36kg
 京都府 …… 定置網 …… サワラ4.7t、マアジ4.2t、ソウダガツオ2.8t、サバ1.1t
 兵庫県 …… 定置網 …… アジ861kg、サワラ133kg、ブリ55kg、マルゴ35kg、ヤリイカ11kg
 鳥取県 …… まき網 …… マサバ30.8t、マアジ11.5t、マイワシ0.7t、ウルメ0.2t

〔海の状況 (12/21～1/20)〕

神子表面水温……年末および期間の終わりに平年並み(平年より±0.5℃)となる日がみられたものの、期間全体をとおして、ほぼかなり高め(平年より1～1.5℃程度高め)で推移した(図1)。

米ノ表面水温……期間の終わりにやや低め(平年より0.5～1℃程度高め)となる日がみられたものの、期間全体をとおして、平年並みからやや高め(平年より0.5～1℃程度高め)で推移した(図2)。

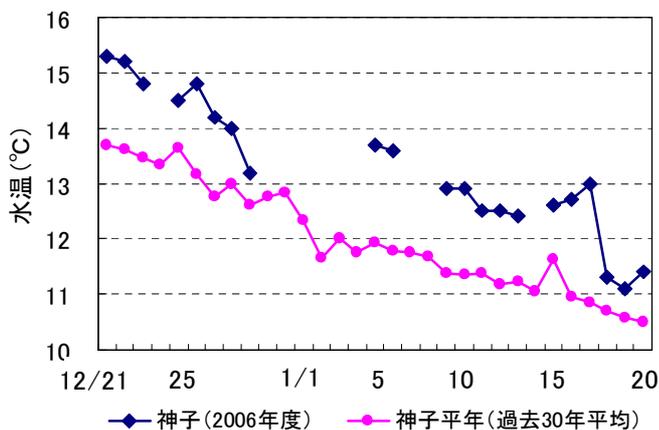


図1 若狭町神子地先における表面水温の推移

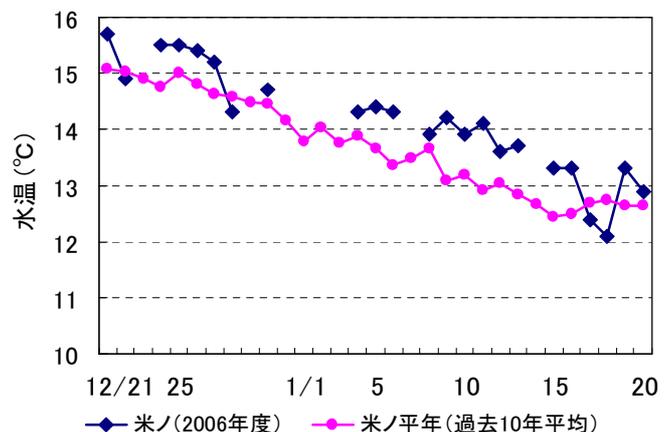


図2 越前町米ノ地先における表面水温の推移

100m深水温……1月は観測がないため休止します。

(松宮 由太佳)

2006年度(平成18年度)セイコガニの漁模様(速報)

2006年11月6日に解禁されたセイコガニ漁は2007年1月10日で終了しましたので、福井県機船底曳網漁業協同組合集計の速報値をお知らせします。

県全体のセイコガニの漁獲量は193トン(対前年17%増)となりました。この漁獲量は、集計値が残っている昭和39年度以降では、昭和39年度の262トン、昭和43年度の221トンに次ぐ、3番目の豊漁となり、漁期前調査で推定したように漁獲対象となる資源の水準が高かったことが伺えました。また、漁獲金額では406百万円(対前年13%増)、平均単価では2,098円/kg(対前年3%安)となりました。

(家接 直人)

白子を持った雄トラフグを探し出す

トラフグの精巣(白子)は食通の間で珍重されており、白子を持った雄として出荷できれば付加価値が付き、高値で取引されることでしょう。今回はこのことに関連して、浜でいわれている「出荷時期のトラフグで大型個体には雌が多く、小型個体には雄が多い。」の実際を探ったので紹介します。

まず、成長に雌雄差があるかどうかを確かめるため、雌雄別の全長・体長・体重毎にそれぞれの違いを比較してみました。データには水産試験場が阿納地区で行った飼育試験(11月26日取り上げ)のものを使用しており、ここには体重の違いを示しました(図1)。雄では~800gにモードがみられ、雌では~1,000gにモードがみられています。次に、これらを統計処理し、雌雄間に差があるといえるかどうかを調べてみました。この結果、全長・体長・体重共に雄と雌の間に差がみられるということでした。

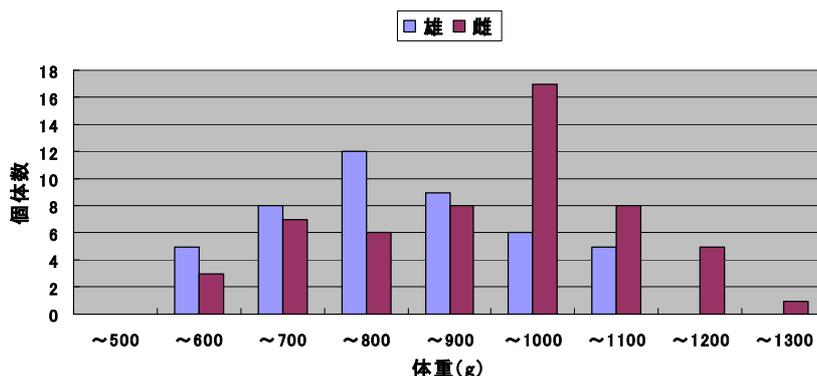


図1 出荷時期の養殖フグの雌雄別体重組成

つまり、「出荷時の雌は全般的に大きく、雄は全般的に小さい。」といえます。例えば体重の軽いフグを選別すれば、かなりの確率で白子を持った雄ふぐを選別出来るのではと期待が持たれました。そこで、100尾分のデータから体重の軽い順に50尾を選んだところ、この群では雌が多かった(雄45:雌55)にもかかわらず、雄の割合は6割と過半数を超えました。しかしながら、期待した大多数が雄というものではありませんでした。逆に、特大フグを選別すれば、雌の選別が可能かもしれません。

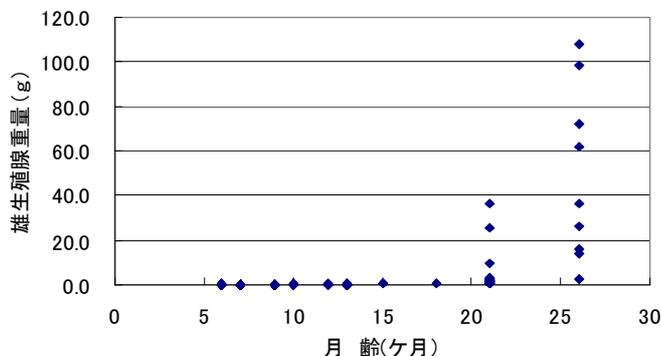


図2 雄の月齢別精巣(白子)重量(g)

ところで、精巣の発達はいつからかというところ、養殖フグの精巣重量は12月(月齢*21)から一部の雄で増加し始め、翌年5月(月齢26)には100gに達するものもみられます(図2)。この時期の卵巣はほとんどが5g前後と小さいため(図3)、小型のフグを選別した後に触診することによって、黄金の手の持ち主なら、より高い確率で白子を持った雄フグを探し出せるかもしれません。

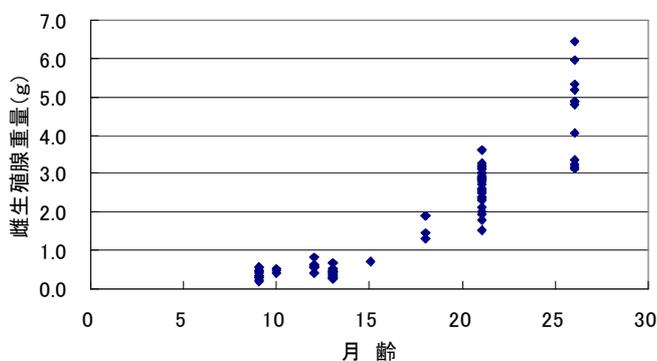


図3 雌の月齢別卵巣重量(g)

ち主なら、より高い確率で白子を持った雄フグを探し出せるかもしれません。

※月齢:3月に生まれたとして、年齢を月数で数えたもの

(粕谷 芳夫)